

# ICT 活用による授業改善に向けて

## (FD 研修「ロイロノートの使い方」より)

特別支援教育コース・檜木暢子

特別支援教育における ICT 機器の活用は、コミュニケーションツールとしての活用や漢字書字、視覚支援などでの活用が進んでおり、関連する実践報告も多数挙げられている。近年はロイロノートを活用した作文支援なども行われている。

10月20日に行われた教育学部FD研修「ロイロノートの使い方」から、教員養成におけるICT活用について考察する。

### 1. 研修の概要

#### ①ロイロノートスクールの概要、使用方法

概説の後、クラスに分かれて、カードの作成などの演習、グループでの質疑応答

#### ②新教職科目「教育とICT活用」実施報告

コアカリキュラムである「教育とICT」活用の授業実践と、学生の感想の紹介

### 2. FD研修からの学び

ロイロノートは、教材や課題作成のおもしろさ、使いやすさがある。児童生徒学生がロイロノートを活用して、思考を深めたり、他者との協働で課題を解決したりすることができる。

ロイロノートを大学の授業で使ったことはないが、これまでも研修会に参加したことがある。今回、改めて使ってみたことで、感覚的に操作できること、つまり作業課題としての簡便さにより、思考に費やす時間を増やすことができると感じた。

実際に「教育とICT活用」の授業実践では、初修者から「不安だったが、TAさんに助けてもらえてよかった」「意外と作るのが楽しく、思ったより早くできた」など、ICT活用に対する心理的抵抗感が軽減された様子が窺えた。また、「児童たちが受け身な姿勢にならず、楽しく積極的に授業に参加できる」「今までとは違う形で、児童生徒の意見や考えに多く触れることができる」など、授業方法としての可能性に言及されており、活用への期待が感じられた。

### 3. 授業改善の方策・計画

学部科目「肢体不自由児の教育課程及び指導

法」「病虚弱児の教育課程及び指導法」では、学生が模擬授業の際にICT機器を活用することがある。主な内容は、タブレット端末を活用した教材提示や、表出困難な児童を想定して意思表示ツールとしてタブレット端末を活用すること等である。また、私が作成したデジタル絵本を紹介することで、活用例を提示しているが、これらの活用は学生個人に任せており、授業で取り上げることは行っていない。「教育とICT活用」に加え、「代替コミュニケーション論」が1回生科目であることから、今後、ICT機器を活用した授業を構想する学生が増えることを期待している。

授業改善の方策として、ICT活用が目的にならないようにしていきたい。ICTはツールであり、児童生徒の深い学びを助けるものである。学部授業で使用方法を取り上げるのではなく、例えば、模擬授業後のディスカッションにロイロノートを取り入れるなどが考えられる。

一方で、教職大学院特別支援教育コースには現職教員が一定数在籍することから、使用方法について取り上げる授業が必要であろう。「特別な教育的ニーズへの対応」や「読み書き困難への対応」「重複障害児の教育実践」など、教育実践に直結する科目において、ICT活用に取り組んでいきたい。

### 4. まとめ

ICTは教育改革の一翼を担うツールである。一方で、教育だけでなく、他の分野においても新しいを取り入れることでその方法が唯一無二のように思われ、手立てが目的にすり替わることがある。教育におけるICT活用の本来の趣旨は、思考ツール、コミュニケーションツールとしての活用であろう。ICTを取り入れる際、その目的、児童生徒の実態との適合、アナログ的手法との比較などを、多面的に考えることが求められる。ICT活用を選択肢の1つとして捉え、児童生徒の深い学びにつながる授業づくりができる教員を養成したいと考える。